

年頭所感



新年挨拶

おおさか市町村職員研修研究センター所長 齊藤 慎

平成18年の年頭にあたり、新年のご挨拶を申し上げます。

皆様には、良き新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

当方、昨年8月1日付けでおおさか市町村職員研修研究センター（愛称：マッセO S A K A）所長に就任致しました。現在は、まだ新米ですのでいろいろなことを勉強中ですが、米原淳七郎前所長の時と同様に、どうぞよろしくお願い致します。

さて、バブル崩壊後長く続いた景気低迷も、少し回復しつつあり、この回復基調がしばらくの間持続するのではないかとの予測もでております。また、そうなってほしいものと願っております。ここ十数年景気低迷が続き、とりわけ大阪の状況がかなり悪いように思われますが、新年に相応しく、大阪の将来についての希望はないのかと、つれづれなるままに、以下のように大阪の良さと方向性について夢も交えて考えてみました。

たとえば、関西の人にどこに一番住みたいかと問えば、あまり考えることもなく、関西と答えるように思います。同じ質問を関東ですれば、必ずしも関東との答えは多くないのではないのでしょうか。関西、なかでも大阪が好まれる理由は多くあります。なかでも、生活のもっとも基本的な部分である衣食住の面で恵まれていることです。とりわけ、「食い倒れの町大阪」と言われるだけあって、食べることに人一倍こだわりを持ち、消費に占める飲食費が大きい（エンゲル係数が高い？）ことを意味します。また、大都市部の割には、通勤時間もそれほど長くないし、自宅を所有している人もかなりいると思います。また、大阪からは京都・奈良・神戸にもかなり近く、個性を持ちながらも、感覚的には一体として一つの圏内にあるように思えます。現実には、大学に在籍している何人かの留学生などからも、同様の感想を聞いたことがあります。その点では、かつて当方も委員として参加した「新しい近畿の創世計画（すばるプラン）[昭和62年3月]」はよい着想だったと思います。ちなみに、「すばる」は六連星（むつらぼし）とも呼ばれ、「統る（すばる）」からきた言葉で、それぞれ別のものが一つにまとまることを意味します。

このように考えると、現在第28次地方制度調査会で検討中の道州制を連想し、区割りがどうなっていたか、関西がまとまることができるのかなどと現実に戻ってしまいます。

閑話休題。大阪は、また、古くから商人の町と呼ばれてきましたが、物流の中心地でした。商人は智恵と才覚で、今風にいえば、ビジネスに励み、その結果大阪は大いに繁栄しました。「大坂（船場）商人」はもともと大阪に住んでいた人たちばかりでなく、各地から人が集まってきたことを忘れてはなりません。逆に、大阪経済は現在停滞していますが、

大阪出身の人が他地域で活躍している例は多くあり、「大阪人」が生み出している付加価値は大きいのではないかと推測しております。例えて言えば、GDP（国内総生産）とGNP（国民総生産）のように、地域的な生産と人的属性で分類した生産の違いのようなものです。このように考えてくると、大阪の将来のため、まず第1になすべきことは、大阪に今いる人材を発掘し、教育することではないでしょうか。次いで、他の地域や国外から多様な人材を集める仕組みが必要です。大阪人は開放的で親切と言われていまして、多様な人材を受け入れやすいと考えられます。経済を一挙に活性化することは難しいのですが、やはり人材を集め、教育し、活用することが、地道ですが確実な「経済政策」と言えるのではないのでしょうか。大阪は東京などの他の地域とは異なる良さがあり、これを活かすことこそが、長い眼で見て活性化に繋がるものと思います。

以前の経済学では、人間は単なる労働力を提供する主体と考えられてきていましたが、近年、人間は資本であるとの認識がなされるようになってきており、人的資本（human capital）と呼ばれます。人的資本と経済成長の関係を究明するために内生的成長理論という新たな分野ができ、人的資本を向上させる方策として教育や訓練の必要性が指摘されています。教育面においては、マッセOSAKAの果たすべき役割が重要と考えております。研修や研究によって、人々に新たな知識・技能を習得して貰い、また生まれつき持っていた能力を開花させることは、経済面のみならず、本人の満足にも繋がるのではないのでしょうか。教育の本質は自分で考えるための材料と情報を提供し、考え方に対してアドバイスし、各人の到達度に応じて前向きな評価をすることと考えます。褒められた体験が人を成長させた例はいくらでもあげることができます。たとえば、以前ある高名な画家が書かれた文章を読んで驚いたのですが、画家になる原動力が、小学校の時に描いた絵を先生に褒められたからというのです。さらには、今の世の中では、このようなことが数少なくなっているので、対人関係を築くためのコミュニケーション技術を習得する場を提供することでもあります。そのような場を提供できるマッセOSAKAでありたいと願っております。

最後になりましたが、本年が素晴らしい年となりますよう心からお祈り申し上げますとともに、皆様方のご健勝とご多幸を祈念致しまして年頭のご挨拶といたします。